

出エジプト作戦

エベネゼル国際緊急基金の働き

ドイツから故郷へ



ユダヤ人がイスラエルに帰還するのを助けるクリスチャンの働き。



ドイツからの帰還

国際



ヨハネス・バルテル
JOHANNES
BARTHEL
エベネゼルドイツ
代表

今年の8月最終日に、ドイツから2度目と3度目のアリア団体便がイスラエルに向かって飛び立つことを、私達は神様に感謝します。エベネゼルのボランティア達がその日の朝早くからフランクフルトとベンゲリオン空港に来ていました。そして、別れを告げに来た友人や家族、そしてオリム達のために、食べ物や飲み物のテーブルを用意していました。

今年の8月最終日に、ドイツから2度目、3度目のアリア団体便がイスラエルに向かって飛び立つことを、私達は神様に感謝します。エベネゼルのボランティア達がその日の朝早くからフランクフルトとベンゲリオン空港に来ていました。そして、別れを告げに来た友人や家族、そしてオリム達のために、食べ物や飲み物のテーブルを用意していました。

そのオリム達のほとんどと彼らのユダヤ人の友人達にとって、彼らの人生においてクリスチヤンに支援を受け、自分の味方になってもらったのは、初めてのことだったでしょう。飲み物や軽食を提供することを通して、私達は彼らへの愛を示すことができました。またこのことは、チェックインをする多くの人々にとっての証となりました。ドイツでは反イスラエルのプロパガンダが教会においてさえ広がっている中、イスラエルの民が故郷へ帰るという預言が成就する時代に今生きている、ということを確信している信者達がいるという事を表すものでした。

ドイツには、ホロコースト以前から反ユダヤ主義の悲しい歴史があります。19世紀には、影響力を持っていた指導者達が、ユダヤ人達に、シオニズムとメシヤの到来は単に昔からある伝説に過ぎないのだ、だから同化すべきだと説得しました。ですから、多くのユダヤ人は、ユダヤ人としての認識よりもむしろドイツ人としての認識を強く持っています。彼らは、第一次大戦において戦った兵士であり、自分の名前をドイツ名に変えた人も多いのです。しかし、それでも彼らは想像できないほどひどい迫害を受けてきました。

私たちの願いは、反ユダヤ主義が彼らを強制的に国外追放する前に、ユダヤ人達が約束の地に帰還することができるようになることなのです。



上:イスラエル、ベングリオン空港

右:ボランティア達が、出発前に歓迎の軽食を提供しているところ



「昔、私たちの先祖に誓われたように、眞実をヤコブに、いくくしみをアブラハムに与えてください。」ミカ書7:20

ドイツには現在35万人ものユダヤ人が住むという祝福を受けています。しかし、神のご計画を知る私達は、彼らが今後長くはドイツに残ることはないと思っています。私達は誰にもプレッシャーをかけたいとは思いませんが、すでに時を悟る人々の数が増え続けているのを見ています。私自身、オリムの何人かに同行して飛行機に乗り、イスラエルのベンギリオン空港に着いた時に、エレミヤ16章から、神が彼らをイスラエルというまことの故郷へと召しておられることについて伝えました。ドイツを今出て行く人々は、今後彼らに続く多くの人々にとっての先駆者となると私達は信じています。

ドイツからの団体便を提供する構想によって、私達はユダヤ人協会からの好意を得ることができました。9月に私はユダヤ人協会会長のナタン・シャランスキと会談するために招待を受けました。私達は、その会談で、ドイツと、ヨーロッパ全体におけるユダヤ人の状況について話し合いました。その結果、今後協力のもとで行っていくことになった様々な計画が生まれました。また、ベルリンで共同の支部を持つようになり要請を受けました。私達は、共同アリヤー情報イベントを企画しており、そのための資料の作成にとりかかっています。この全てはただひとつの目標のためです。それは、ドイツからのアリヤーを増やすことです。ユダヤ人協会との緊密な協力は、私達にも彼らにも励まされることです。そして、特権です。またそれだけではなく、多くの面において、大きなチャレンジもあるのです。

ドイツからの次の団体便は、2016年1月17日を予定しています。私達の目標は、ドイツから定期的に団体便、理想的には月に一度の団体便を提供することです。ユダヤ人協会との協力がさらに強まることによって、他の多くの国々においてもアリヤーの実を結ぶことができるようになると信じております。

アリヤーの団体便は、100%エベネゼル緊急基金の資金援助によってなされていると言えるかもしれません、しかしむしろこれは、10

0%神様によって備えられたものと言うべきでしょう。なぜなら、神様こそが、クリスチャン達を導いて、神ご自身の働きに加えてくださっているからです!だからこそ、私達は神様があなたの心にふれて、祈りと財政的な面でアリヤーのために寛大に捧げる心を与えてくださったことを、神様に感謝するのです。その実は今でも明らかですが、永遠においてはさらにもっと多くの実が見られることでしょう!

過去何年かの間にアリヤーした人々からの報告によると、イスラエルにおいて毎日の生活に適応するのはチャレンジが大きいということです。しかし、彼らは誰一人自分の決断を後悔していません。それどころか、一つのメッセージを繰り返し聞いています。それは、ドイツの人々に今が帰還の時だと伝えてほしい、というメッセージです。

最近のアリヤーフライトのビデオクリップをご覧ください。

www.operation-exodus.org/german-aliyah



上：オリムを暖かく送り出す人々

下：ヨハネス・バルテルとナタン・シャランスキ

キーワード

アリヤー Aliyah :
アリヤーとはユダヤ人がイスラエルへ移住することを表す言葉です。ヘブライ語では、アリヤーは、「上る」という定義の言葉で、エルサレムへ上っていくことを表します。

オリーム Olim :
オリームは、イスラエルへ移住するユダヤ人、つまりアリヤーをする人々です。男性の単数形は、olehで、女性の単数形は、olahです。オリームとなる候補者にエベネゼルのチームはコンタクトを取り、彼らがアリヤーをすることを促します。



立ち去ることは非常に賢明である

ウクライナ



ウクライナ
タチアナ
TATIANA
ウクライナチーム

エレナと夫のイゴル、3歳の娘のソフィアはドネツクに住んでいました。そこでは、ウクライナ政府と分離主義者との間の最も激しい戦闘が続いている地区でした。エレナはこのように伝えています。

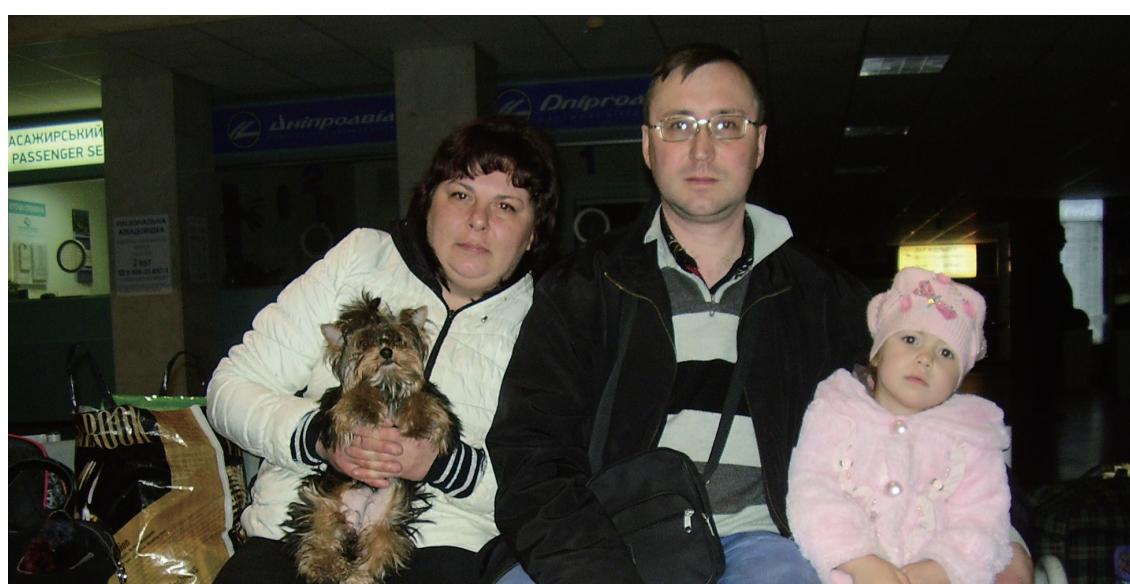
私の夫は製菓会社の販売員をしており、私は育児休暇をとっていましたが、彼の収入は私達の生活を支えるのに十分でした。私達は快適な生活をしていました。しかし、その後、私達の地域で、ウクライナ軍と分離主義者との間の戦争が起きました。私達は何度も地下に隠れなくてはなりません。娘は、爆発音を聞いて非常に怖がりました。とても危険な状況でした。イゴルは品物を店に配達する時に何度も攻撃を受けました。私達の親戚の二人は戦争に巻き込まれて死にました。そしてもう一人は行方不明です。私達はもうどうしたらよいかわかりませんでした。

そんな時、一つの答えが与えられたのです。私の従姉妹とその家族がしばらく前にアリヤーしたのですが、彼女が私に電話をくれました。そして、私達にもアリヤーするように励ましてくれたのです。私達は、この混乱した国を出てイスラエルに行くことは賢明なことだと思い、帰還を決心しました。それから何をしなくてはいけ

ないかを調べました。しかしごろに私達には問題があるということに気がつきました。それは、私達には必要な書類がなかったことです。私の姉がそれを持っていて、それを私達に渡すのを拒否したのです。それで、私はユダヤ人協会にアドバイスを求めました。すると彼らは、エベネゼルのタチアナとコンタクトを取るように計られてくれました。

エベネゼルは、何から何まで私達を助けてくれました。まず、タチアナは私達が何をしなくてはならないかを説明し、パスポートやビザを申請するために多くの支援と経済的な援助もしてくれました。私達は、ドネツクからより安全なドネプロペトロフスクへ移るのを助けてもらいました。そこで、彼らは私達に一時的な滞在場所も提供してくれました。そこから、私達はアリヤー便に乗るために空港へと連れて行ってもらったのです。

エベネゼルは私達に、ユダヤ人達を助けようとしてくれるクリスチャンがいるということを示してくれました。それで、私はエベネゼルの連絡先の詳細を、私の多くのユダヤ人の家族親戚に教えました。それは、彼らもまたアリヤーする決断をした時のためです。エベネゼルの皆さんに健康と最善を祈ります。



イスラエルへ向かうエレナ、イゴル、ソフィア



突然の痛みに、アンドレイはどこかがおかしいことに気づきました。彼と家族は今年の終わりにアリヤーしたいと願っていましたが、今や彼自身の健康が心配になりました。それで病院で検査を受けましたが、結果は悪い知らせでした。彼は癌を患っていたのです。

彼は、2015年初めに私達に連絡をしてきました。というのも、彼は私達がイスラエルへ帰還する人達を支援していると聞いたからでした。しかしその時には、彼にどれだけの支援が必要かは知る余地もなかったのです。

私達は早速イスラエル領事の事務所に連絡を取り、状況の緊急性について説明し、彼らにこの

家族の書類の手続きを急いでもらうことに感謝しました。それでも、アンドレイは彼の2度目の化学治療の翌日に領事と面接をしなくてはなりませんでした。

私達が家族の様子を聞くたびに、アンドレイは心から私達の支援と援助に感謝を表していました。「皆さんの助けなしには、私達はこんなに早く帰還することは決してできなかつたでしょう。」と言っていました。私達が彼にイスラエルに何を期待していますか、と聞くと、彼はただ「奇跡です!」と言っていました。

どうか、アンドレイの癒しの奇跡のためにお祈りください。

ウクライナ



ウクライナ
バディム ラボチー
VADIM RABOCHIY
東ヨーロッパ地区代表

三世代がともに帰還する

ガス輸送の仕事をしていたデミトリは、医者である妻のアラと、15歳の息子エブゲニー、デミトリの85歳の母のスペトラナは、ウクライナのドネツク地区で2部屋のアパートと一緒に共同生活をしていました。

デミトリは自分の母がユダヤ人であることは知っていましたが、それを証明する書類を持っていませんでした。そういうわけで、この家族には、アリヤーの申請をするための支援が必要でした。彼らがどのように手続きをしたらよいか考えていた時、ユダヤ人のヘセド慈善団体の看護師がスペトラナを訪れました。その時にビザの申請をしているもう一つのユダヤ人の家族を紹介してくれたのです。それでデミトリは彼らと話し、エベネゼルへと導かれたのです。

デミトリの母親は、健康状態が思わしくなかったため、迅速な申請の手続きが必要でした。エベネゼルはパスポート申請の費用、イスラエル領事訪問の費用、また交通費その他を提供しました。それで、彼らは6月にアリヤーすることができたのです。

ウクライナにおける私たちのチームはさらに多くのユダヤ人たちをこの問題の多い地から帰還させるために皆さんの継続的なサポートを必要としています。



ウクライナ



ウクライナ
タチアナ
TATIANA
ウクライナチーム

問題を乗り越えてイスラエル行きの飛行機を待つデミトリ、アラ、エブゲニー、スペトラナ

すべては祈りから

祈り



エリザベス・ウェブ
ELIZABETH WEBB
国際エンゲージ
祈りのコーディネーター

祈りは、主が、ご自身の天の戦略を地上で成就するために、私達に与えてくださっている鍵です。

わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」 マタイ16:19

私達は皆さんの祈りを本当に感謝しています。祈りこそが、アリヤーの扉と道を開くものです。エベネゼルの働きは、前進、拡大を続けており、新しい場所も開かれています。これは確かに主の忠実さにより祈りに答えてくださっているからでしょう！

感謝すること：

△ アルゼンチンやフィリピン、タイ、台湾やアメリカにおいて、牧師や聖書大学の学生や教会で分かち合う機会が与えられていることを主に感謝します。アリヤーのメッセージがこれらの集会においてさらに広がるように、また主が出席する人々の心にとりなしの心を与えてくださるようにお祈りください。



- △ ドイツやウクライナにおいてユダヤ人協会との協力が強められていることを主に感謝します。世界中において、ユダヤ人協会との協力が強められ、さらにアリヤーの働きが前進するようにお祈りください。
- △ パスポート事務所、公文書保管所の管理者、イスラエル領事たちが、書類を認可する際に、知恵と正義が与えられるようにお祈りください。そして彼らが正しい心でアリヤーしたいと願っている全ての人を妨げず、全ての障害の上に、主の御名と主の御言葉を高くかかげます！

聖霊が導かれる祈りを通して、主はユダヤ人のためのイスラエルへの道が、霊的にも物質的にも開かれたものとなるために私達を用いたいと願っておられると信じます。

祈りの課題：

- △ ユダヤ人社会の人々が、イスラエルのネタニヤフ首相が、イスラエルは彼らを「両手を広げて」待っている、特に、アメリカからの帰還を待っている、と語ったように、主がイスラエルを召しておられる声を聞いて、それに応えることができますように。
- △ 困難の中休むことなく奉仕を続けているウクライナのチームの守りと、知恵が与えられるようにお祈りください。ウクライナのユダヤ人が無事アリヤーすることができる道が開かれ続けるようにもお祈りください。
- △ 2016年1月にドイツからの団体アリヤー便が出ます。その旅が守られるようにお祈りください。
- △ アリヤーの手続きで困難に直面している人々に、力と忍耐が与えられるようにお祈りください。彼らが神の御心に従い堅く立ち続けることができるようにお祈りください。
- △ 新しいオリムに主の備えと慰めが与えられ、イスラエルの地に順応し定住することができますように、そしてもう二度と引き抜かれることがないように（アモス9:15）、お祈りください。

忍耐がもたらす祝福

オルガの母のタチアナが突然亡くなりました。それだけでもひどいショックでしたが、オルガは自分の家も失いました。タチアナは、ウズベキスタンとアフガニスタンの国境付近のテルメズにある軍事基地で働いていました。タチアナ、オルガ、タチアナの孫のマリアナとその息子のイゴルは、基地にあるアパートで一緒に生活していました。しかし、タチアナの死によって家族は住む場所を追われてしまったのです。

エベネゼルはタチアナと何年か前に連絡を取り、遂にその家族はイスラエルへ帰還する決心をしていました。しかし、タチアナとオルガの出生証明書の国籍が消去されていたため、書類上の問題がありました。この問題が解決する前にタチアナが亡くなつたため、オルガは、自分の娘と孫を連れて首都の近くにある町、タシユケントへ行って、ワンルームのアパートに住み、掃除や選択などのアルバイトをしながら毎日の生活を何とか続けていたのです。

私たちのチームはこの家族のために祈り、経済的にも精神的にもできる限りの支援をしました。その町の地域教会も彼らを支援し始めました。それはすばらしいことでした。そして2008年に奇跡が起きました。イスラエル領事が、書類の原本が見つからない場合、その書類の写真があれば認められるということを発表したのです。それで、私たちのチームメンバーの

一人がオルガとともに公文書保管庫へ行き、オルガがユダヤ人であることを証明する書類の写真を撮ることができました。

この家族がアリヤーするための許可を取得するために、テルメズに行って、もう一つの書類を用意しなくてはなりませんでした。

その後、もうひとつの妨げが生じました。この家族は今住んでいる場所の居住許可証を持っていなかったのです。この問題が解決するまで、領事との面接は実現しそうもありませんでした。オルガはだんだんと落胆していき、自分達がアリヤーできるのかどうかもわからなくなっていました。私達は祈り続けました。そして、時折領事に連絡を取り続けました。その後しばらく時間が過ぎ、それからもう一つの奇跡が起きました。領事がオルガと家族に面接に来るようになっていました。そのことによって、彼らのビザがおりました。そして、すべての書類が整い、アリヤー便に乗るための準備が整いました。

今年の7月末に彼らはやっとイスラエルに着きました。神様の忠実さにより、私達の11年に渡るこの家族への経済的、実際的、精神的支援がこのようなすばらしい結末をもたらすことができたことを、心から喜んでいます！

ウズベキスタン



ウズベキスタン
ザーナ
ZHANNA
ウズベキスタンリーダー

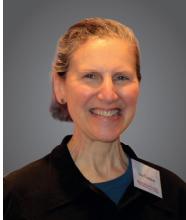


すばらしい結末：
アリヤーするオルガ(中央)、
娘マリーナ、孫イゴル



慰めと喜び

イスラエル



アイリス・ゴールドマン
IRIS GOLDMAN
エルサレム支部

「慰めよ。慰めよ。わたしの民を。」とあなたがたの神は仰せられる。

「エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その労苦は終わり、その咎は償われた。そのすべての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けたと。」(イザヤ 40:1-2)

ユダヤ人を慰めることは、神からの命令です。これはまた喜びでもあります。主とともに働き、主がご自身の民の悲しみを喜びに変えてくださる(エレミヤ 31:13)ために用いていただけることは、何と言う特権でしょうか。

エルサレムの事務所での私達の働きは、主に慰め、励まし、実際的支援の働きです。神の民が故郷へ帰還し定住する時に、彼らが難しい状況にあつたとしても、彼らに喜びを与えることができるよう願い祈っています。



私たちの支援がエカテリナさんを喜ばせ、彼女がイスラエルに定住することを助けました。

毎日、どのような方からメールや電話が来るのか、またオリムの方の訪問を受けるかは決して予想がつきません。以下は、最近の二つの出来事です。

デニスとエカテリナ：ある午後、夫のデニスとロシアからアリヤーしたエカテリナが、エベネゼルの支部を訪れました。デニスには仕事が必要でした。そして二人とも安息日が来る前に食料を必要としていました。それで私達は彼らに食料品と求人情報を提供しました。デニスとエカテリナはすでにモスクワのエベネゼルからの支援を受けて、イスラエル領事への交通費やアリヤー便に乗るための交通費などの支援を受けていました。

そのとき、若い女は踊って楽しみ、若い男も年寄りも共に楽しむ。「わたしは彼らの悲しみを喜びに変え、彼らの憂いを慰め、楽しませる。(エレミヤ31:13)

ハダサ：この愛すべき婦人は、アメリカからアリヤーしていました。しかし、イスラエルでの生活で苦労していました。彼女は私達が彼女の心に耳を傾けたことで慰めを受けていました。私達は彼女に求人情報を渡し、彼女のガス電気水道代を代わりに支払いました。このことで彼女は励ましを受け、イスラエルでの生活を忍耐を持って続けて続けていこうという思いになりました。

私達はイスラエルに帰還する方たちの全ての問題を解決してあげることはできませんが、なんらかの慰めをもたらすことができるることは喜びです。

Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International



Ebenezer Emergency Fund
International & UK Office
Ebenezer House, 5a Poole Rd.
Bournemouth, BH2 5QJ,
UKPhone: +44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster
NY 14086

Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



エベネゼル緊急基金日本支部
〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
Email : e@eefj.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842



Operation Exodus (出エジプト作戦)はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、イスス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。